

地方創生推進交付金 評価シート(総括)

- 【事業効果】
 ① 地方創生に非常に効果的であった
 ② 地方創生に相当程度効果があった
 ③ 地方創生に効果があった
 ④ 地方創生に対して効果がなかった

- 【課題・苦労の有無】
 ① 課題・苦労があった
 ② 課題・苦労がほとんどなかった
 ③ 課題・苦労が全くなかった

- 【事業の評価】
 ① 総合戦略のKPI達成に非常に有効であった
 ② 総合戦略のKPI達成に相当程度有効であった
 ③ 総合戦略のKPI達成に有効であった
 ④ 総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

事業No	(1) 交付対象事業の名称	(2) 事業の概要	(3) 交付金の種類	(4) 交付決定額(円)	(5) 実績額(円)	(6) 本事業における重要業績評価指標(KPI)					(7) 本事業終了後における実績値			(8) 事業を進める中での課題・苦労の有無		(9) 外部有識者からの評価	
						指標	基準値	目標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	内容	課題・苦労の有無	課題・苦労に対する取組中における修正・改善 ※左記①の場合に記載	事業の評価	外部有識者からの意見
1	文化芸術を中心としたまちのにぎわい・活力創出事業 ～選ばれたまちを目指して～	「文化芸術のまち」のイメージや市内の多様な観光資源を活用し、市民や各種団体、事業者等と連携しながら事業に関連する産業の活性化に取り組むことで、中心市街地の求心力やにぎわい、活力を創出するほか、未来を担う子どもたちに幼少期から身近に文化芸術に触れる機会を設け、感受性豊かな心を育む情操教育を行うことで、文化芸術の振興に必要な人材の育成・確保に努め、文化芸術活動の安定的な継続とさらなる発展を目指し、「文化芸術のまち」としての地域ブランドの価値を向上させる。	地方創生推進交付金	5,797,000	5,445,423	指標①	アートフェスティバル来場者数	0 (R1)	53,000	人	R5.3	42,701	② 地方創生に相当程度効果があった	① 課題・苦労があった	昨年度に引き続き、コロナ禍の影響により開催期間の伸長や会場の分散、人数制限を行うなどの感染症対策を徹底しながら実施した。 今後は、アフターコロナへの転換期として、感染対策などで制限されていた規模感などを見直しながら催しを行い、市民参加の促進や、参加者の回遊性向上、それによる経済効果を高めるための仕掛けを検討していく必要がある。	② 総合戦略のKPI達成に相当程度有効であった	○主な取組の成果として以下の内容を確認した。 ・観光まちづくり事業では、アートフェスティバルとして約20のイベントを実施し、まちのにぎわいづくりの創出を推進した。また、交付金事業が終了した後も自立化し、継続して実施しているイベントが生み出されている。 ・コロナ禍で減少している文化芸術の発表の場を、市が率先して提供した。 ・観光を振興する部局と文化芸術を振興する部局が一体となって事業を推進したことによって、文化振興のイベントで市内の観光消費額を増加させるような新たな視点で文化振興を推進することが可能となった。 ○その他以下のような意見が付された。 ・今後周遊企画の対象となる店舗等の売上高を大きくしていく必要がある。
指標②	周遊企画の対象となる店舗等の売上高	0 (R1)	1,700	千円	R5.3	3,378	(指標①) コロナ禍による人数制限があったものの、前年度同様の参加者を記録したが、目標値を達成することはできなかった。 (指標②) デジタルスタンプラリーやクイズラリーの実施により、周遊性の向上を図り、対象店舗の売上高は前年比35%増となった。 (指標③) 本事業に加え、ライブラリーや庭園の利用者、貸館での催しの実施回数の増により来場者が増加した。 (指標④) 観光需要は回復傾向にあるものの、コロナ禍の影響もあり、目標値には至らないと見込まれる(実績値は令和3年度)。										
指標③	市立文化芸術センター来館者数	0 (R1)	270,400	人	R5.3	787,714											
指標④	観光消費額	94,408 (R1)	97,558	百万円	R5.3	61,780 (R3)											
2	やる気が生み出すイノベーション！新たな一歩応援事業	商工業・農業・観光などあらゆる分野を横断的につなぎ、「住みやすく魅力あるまち」のイメージを定着させ、地域活性化を促進する。 農業では、特産であるダリア産業への支援、人材育成に取り組む。また、北部地域移住者を受け入れる体制構築支援を行う。 商業では、新たなビジネスモデルの確立支援や事業へのデザイン思考の導入、若者の就労支援に取り組む。 観光では、“ウェルネス”をテーマにした滞在型・体験型の観光コンテンツの開発を行う。	地方創生推進交付金	6,749,000	6,403,387	指標①	ダリア生産に係る売上高	40,000 (R2)	42,000	千円	R5.3	45,000	② 地方創生に相当程度効果があった	① 課題・苦労があった	ダリア産業の人材育成を目的とした補助事業にて、補助事業者が授産サポーターへの技術指導を継続して行った結果、うち1名については令和5年度よりダリア産業への本格的な参入に至った。 北部地域への移住希望者が増加する一方、紹介できる空き家を見つけることが困難な状況が続いていることから、引き続きWEBサイトやチラシによる情報発信、空き家相談セミナーを開催しながら、移住のニーズ発掘に努めたい。 新商品の開発やイベントの実施により集客数が増えているものの、エネルギー等物価高騰の影響を大きく受けている。事業見直しによるコスト削減や新たな事業展開を企画することで収益拡大する必要がある。 多くの地域住民や事業者をいかに巻き込み、地域の輪を広げることが出来るかが課題である。また、今後、採択した事業や事業者に対しては、金銭面以外の支援を行うことで、コンテンツの継続性を高める必要がある。	③ 総合戦略のKPI達成に有効であった	○主な取組の成果として以下の内容を確認した。 ・高齢化が進むダリア産業で、新たな担い手を1名確保した。 ・ダリアを活用した特産品開発では、ジンジャーシロップやビールの開発、ダリア酵母を用いた製パンの取組を行い商品開発に繋がった。 ・北部地域の移住相談については目標である20件の相談を受けた。 ○その他以下のような意見が付された。 ・新たなビジネスモデルについて営業利益率の目標値を上げるべきである。 ・個別アプローチ等で、移住相談件数を増加していくべきである。 ・北部地域のマスタープラン、ロードマップを作成すべきである。
指標②	本市北部地域への移住相談件数	0 (R2)	20	件	R5.3	20	(指標①) 球根の生育不良も影響し、約52万球(前年度は約55万球)に減少したものの、切り花収入は前年度と同水準を維持し、目標値を引き続き上回った。 (指標②) 情報発信の効果もあり、移住相談件数は前年度を大幅に上回った。										
指標③	新たに立ち上がったビジネスモデルの営業利益率(イニシャルコストを除く)の平均	0 (R2)	1.0	%	R5.3	3.0	(指標③) コロナ禍の影響はあったものの、地域に密着した活動で集客数が増えたことで、目標値を上回る営業利益率を達成することができた。										
指標④	官民連携による観光コンテンツ提供事業者数	0 (R2)	0	事業者	R5.3	2	(指標④) 昨年度に引き続き市内事業者を対象としたワークショップ、コンペティションを行い、2団体の企画を実証支援事業として採択した。										

地方創生推進交付金 評価シート(総括)

- 【事業効果】
 ① 地方創生に非常に効果的であった
 ② 地方創生に相当程度効果があった
 ③ 地方創生に効果があった
 ④ 地方創生に対して効果がなかった

- 【課題・苦勞の有無】
 ① 課題・苦勞があった
 ② 課題・苦勞がほとんどなかった
 ③ 課題・苦勞が全くなかった

- 【事業の評価】
 ① 総合戦略のKPI達成に非常に有効であった
 ② 総合戦略のKPI達成に相当程度有効であった
 ③ 総合戦略のKPI達成に有効であった
 ④ 総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

事業No	(1) 交付対象事業の名称	(2) 事業の概要	(3) 交付金の種類	(4) 交付決定額(円)	(5) 実績額(円)	(6) 本事業における重要業績評価指標(KPI)					(7) 本事業終了後における実績値			(8) 事業を進める中での課題・苦勞の有無		(9) 外部有識者からの評価		
						指標	基準値	目標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	内容	課題・苦勞の有無	課題・苦勞に対する取組中における修正・改善 ※左記①の場合に記載	事業の評価	外部有識者からの意見	
3	新しい生活様式に対応した起業支援事業～若い力で新しい宝塚を創造する～	市内の小規模事業者及び個人事業主が営む既存店舗等を対象に、新しい生活様式への対応を見据え、魅力ある個店への店舗改装費等に係る工事費等の一部を補助する店舗リノベーション補助金を交付し、エリアの魅力向上を目指す。 若手起業支援策として、学生を対象に起業に向けた機運醸成を図るセミナー等を実施し、若者の起業促進や魅力ある事業の創出を目指す。 宝塚市の未来を担う市内小学生を中心に、専門家によるワークショップを実施し、自己の表現力や他者とのコミュニケーション能力など、起業に必要な基礎的能力を向上させる。	地方創生推進交付金	2,368,000	1,781,500	指標①	店舗等リノベーション支援事業の支援により店舗改装を実施した個店の数	0 (R3)	10	件	R5.3	4	③ 地方創生に効果があった	(指標①) 既存店舗等の改装工事を行う事業者に対する補助制度を創設し、4事業者を支援した。 (指標②) 宝塚商工会議所で起業セミナー等を実施するも、目標値には至らなかった。 (指標③) 指標②では目標値に至らなかったものの、市内での起業希望者に対して、的確に支援を行うことができ、目標を達成することができた。	① 課題・苦勞があった	令和4年度は、コロナ対策に資する改修に対する補助制度を設けたため、当該補助金を活用する事業者が多かった。また、エネルギー等物価高騰の影響を受け、申請したにも関わらず、工事費の上昇や半導体不足により、改装工事を中止する事業者もあった。 若い世代が起業しやすい環境づくりのため、宝塚商工会議所で起業セミナー等を実施しているものの、若い世代の参加者数は伸び悩んでいる状況である。また、若い世代の個別支援の希望者数も少ない状況である。 創業機運醸成のため、市広報やSNS等を通じて、セミナーの開催や起業に係る支援制	③ 総合戦略のKPI達成に有効であった	○主な取組の成果として以下の内容を確認した。 ・市内4件の小規模事業者や個人事業主に対し、改装や看板設置など店舗への改装等にかかる工事費の一部補助を行い、市内の魅力ある店舗づくりを進めた。 ・大学での起業醸成のセミナーを実施し、約150名の学生等の参加があり、若年者の起業意識の醸成を図った。 ・市内小学校全校において外部講師を招いたグループワークを実施し児童の自己表現力や他者とのコミュニケーション能力などの向上に寄与した。
						指標②	若手起業家(20代まで)が市内で起業支援を受けた件数	7 (R3)	10	件	R5.3	5						
						指標③	若手起業家(20代まで)の市内での起業数	1 (R3)	2	件	R5.3	4						
						指標④												
合計				14,914,000	13,630,310													